

只木ゼミ前期第5問検察反対尋問レジュメ

文責:1班

I. 反対尋問

- 5 1. 「故意を不当に拡張しない」A説を採用しながらも、第一行為での実行の着手を認めているのは矛盾しないか。
2. 1頁37行目本問の検討の第1行為の有する危険性がVの死亡という結果へと現実化したといえるなら第1行為と第2行為を別個に判断するのは不当ではないか。
3. 弁護レジュメ1頁17行目において「行為者が認識認容した範囲での故意の評価を行うことができる」としているが、例えば共犯の場合、構成要件実現の客観的危険性の認識が存在したかしていないかで、同じ因果を辿っているように見えるのにもかかわらず結論が別れることになるのは不当ではないか。
- 10

以上